

## 人権学習会「ブラインドサッカー」の実施



先々週の金曜日の2校時、体育館に全校児童が集まり、人権学習会を実施しました。品川CC パレシアルというブラインドサッカーチームから、選手の寺西一さん、監督の小島雄登さんにおいでいただき、お話をいただきました。4年生は、後半に、ブラインドサッカー体験までさせていただきました。

寺西選手は、生まれたときから目の状態は良くなく、小学校4年生ごろからだんだん悪化し、中学生くらいの時には完全に失明をしたそうです。ブラインドサッカーに出会ってからは、コートの中では、普段の生活で苦勞している、安全かどうか(段差や人込みなど)を気にせず、自由に動き回れる面白さにひかれていったとお話をされていました。また、サッカーを通じていろいろな人に出会えることや、勝つためにみんなで協力して一生懸命頑張ることができていることがとても楽しいとおっしゃっていました。

また、実際にボールを蹴るところも見せていただきました。コーンをねらってボールを蹴ってぶつけるパフォーマンスでした。音でコーンの位置を事前に寺西選手に知らせ、そこをねらって蹴るのです。さすが寺西選手、すべてのシュートを成功させました。あとで、校長の特権で、授業終了後に寺西選手に伺ったのですが、5mほどの距離だと、ほぼ間違いなく当てることができるそうです。

全体で体験したワークでは、目をつぶって周りが見えない友達に、モデルの動作を相手に言葉で伝え、その通りに動いてもらうという体験をしました。見たことを言葉にする、しかもそれを相手にわかるように話すことの難しさを感じる時間となりました。人と話を共有する時のポイントとして、「相手にしっかり伝えようとする」とともに、「相手の話をしっかり聞こうとする」ともとても大事だという話が印象的でした。

児童からは、「見えない方にとって、音がものすごく大事だとわかりました」「ブラインドサッカーは、やっている選手の頑張りだけでなく、周囲のサポートをしている人たちの存在もものすごく大切だということがわかりました」「きちんと伝える・伝え合うことが大切だとわかりました」という感想が聞かれました。寺西さん、小島さんのおかげで、大変意味のある学びを体験することができました。ありがとうございました。